



ジャカラнда

# Jacaranda

ナミビア・オマルル通信NO.10

2022.11.21

JICA海外協力隊 豊田桃香

## とよた先生の活動について

ナミビアの小学校に来て、9ヶ月経ちました。今回はとよた先生が、小学校でどのようなことをしているのか、具体的にお話したいと思います。日本語を教えるにしているわけでも、担任の先生をしているわけでもありません。算数教育をもっと伸ばすために、ナミビアに来ています。

算数は、買い物へ行った時、物の長さや重さを知りたい時、数を数える時、色々な身の回りの場面で活用されますね。ナミビアでは、算数教育が課題となっています。例えば、 $8+7$ を計算するとき、みなさんならどう計算しますか？パッと15と答えがうかぶ人も多いでしょうし、8と2で10を作って、15と答えをだす人もいます。ナミビアでは指を使ったり、8本棒をかいて、7本棒をかいて、1から数えたりする方法で教えていました。この方法に慣れてしまっており、大きい数の計算も、棒をたくさん書くはめになってしまっています。当然ミスも増えます。他にも課題はたくさんあります。

ナミビア

|||||    |||||

日本

$8 + 7 = 15$

10 (2) 5



### ① 低学年に数の基本的な力をつけること

今年度は1～3年生のクラスに毎日入っています。1年生では数図ブロックや数図カードを使って学習したのを覚えていますか？ナミビアにはそういったものがないので、ペットボトルのキャップを使って、学習しました。いかに身の回りにあるものを学習に生かせるか、日々考えています。

低学年は、ほとんどの子が英語を理解できますが、時々担任の先生が現地語で通訳してくれます。

### ② 先生たちに教え方や教材を共有すること

時々、ワークショップという形で、先生たちに時間を作ってもらって、教え方や教材の提案をします。日本では当たり前のように行っている計算方法が、ナミビアの人たちにはめずらしいようです。いいなと思って、先生がその方法で取り組んでくれている時、うれしく感じます。

